

新学習指導要領におけるキャリア教育

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 令和2年3月

キャリア教育については、これまでも各都立高校で取り組まれ、生徒の自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育てていくものとして、学校の教育活動全体を通して行っていたいております。

平成30年3月に公示された新学習指導要領では、次のように規定されています。

○〔総則〕生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

○〔特別活動〕学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと、その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材としてキャリア・パスポートを活用することになりました。都立高校においても、令和2年度から「キャリア・パスポート」が全校実施となります。このため、高等学校教育指導課では、これまで各学校が作成しているキャリア教育の年間指導計画（全体計画）を作成するに当たり、キャリア・パスポートをどのように位置付け、どのような場面で活用するのかを明確にすることができるよう、令和2年3月に参考資料※を示しました。

この進路指導資料では、その一部を紹介しています。生徒の基礎的・汎用的能力の更なる育成のため、各校でのキャリア教育の充実に御活用ください。

※令和2年3月18日付31教指高第1009号「令和2年度キャリア教育年間指導計画（全体計画）の作成及び提出について（依頼）」

1 キャリア・パスポート導入の目的

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力（基礎的・汎用的能力等）を身に付けていくことができるよう、キャリア教育の充実を図る必要があります。そのため、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる諸活動について、生徒自身が学びや活動を記録・蓄積し、振り返りと自己評価をすることによって基礎的・汎用的能力等を育てます。

※基礎的・汎用的能力とは、キャリア教育で育成すべき力のことで、具体的には次の各能力が示されています。

人間関係形成・社会形成能力
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
【具体的な例】：他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ 等
自己理解・自己管理能力
自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
【具体的な例】：自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動 等
課題対応能力
仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる能力
【具体的な例】：情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善 等
キャリアプランニング能力
「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力
【具体的な例】：学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善 等

2 キャリア・パスポート実施にあたっての基本的な考え方

各学校がこれまで使用している、進路ノートやワークシートなどの資料や実践してきた取組を基に、その中に、下の「キャリア・パスポートに必要な視点」が盛り込まれているのかを確認した上で、必要に応じて修正及び整理し、各学校のキャリア・パスポートとして作成します。

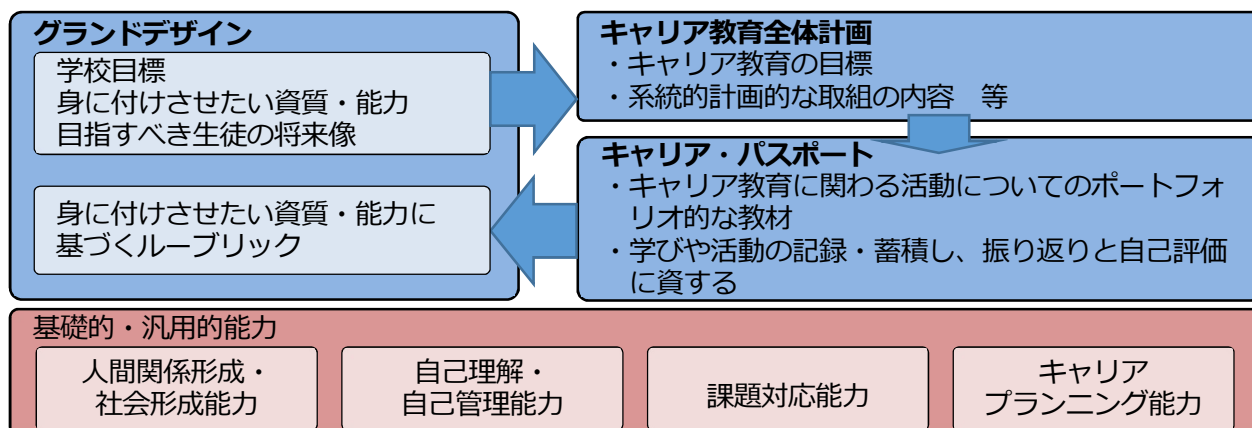
●キャリア・パスポートに必要な視点

- 1 様々な段階において学んだこと、自分の考えや思いを書き留め、振り返りができるようにする。
例：入学当初、学期終了時、学年開始及び修了時、高校卒業時、学校行事（文化祭、体育祭、遠足、修学旅行、就業体験・インターンシップ、進路ガイダンス、オープンキャンパス など）、総合的な探究の時間 等
- 2 生徒の考えや思いに対して他者（担任、保護者などの大人、友人等）からのコメントを入れられるようにする。また、他者の視点のコメントに対して生徒の考えや思いをさらに書き留められるようにする。
- 3 書き留めた学びや活動の記録を蓄積し、小学校から高等学校までの記録としてまとめられるようにする。

3 都立高校における活用方法

- (1) 各学校のキャリア・パスポートを使用し、各学校が設定した段階において学んだこと、自分の考えや思いを書き留めます。
- (2) 年間を通じて一定程度、生徒が記述した考えや思いに対して他者（担任、保護者などの大人、友人等）からのコメントを入れます。他者が直接記述するほか、他者のコメントを生徒本人が書き留めることも考えられます。
- (3) 生徒自身が記入し、面談で活用するなど大人が対話的に関わります。
- (4) 記録媒体は紙・電子データを問いません。
- (5) 在学中は、書き留めた学びや活動の記録を蓄積し、小学校・中学校からのキャリア・パスポートと合わせて、いつでも振り返ることができるように保管します。
- (6) 卒業時は本人が持ち帰り保管します。

〈グランドデザイン、キャリア教育全体計画、キャリア・パスポートの関連性を示した概念図〉



以上のような取組を行うことにより、生徒にとっては、小学校から高等学校を通じて、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして、自己評価を行うことによって、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐことができます。また、教師は、生徒のキャリア・パスポートの記述を基に対話的に関わることによって、生徒の成長を促すとともに、生徒の考えや思いを把握し、指導に資することができるようになります。

キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰

文部科学省では平成18年度から、キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた教育委員会、学校、PTA団体等を表彰しています。平成31年度は、葛西南高等学校と第五商業高等学校が表彰されました。ここで、2校の地域との連携や事前事後指導における取組を紹介します。

都立葛西南高等学校のキャリア教育

「生徒の数だけ夢がある！全方位型の進路指導体制」をテーマに、本校の特色である多様な進路を実現するため、3年間を通して様々なキャリア教育を行っています。特に、就職希望者が例年多いことを踏まえ、高校入学後早い段階から「職業理解プログラム」による進路ガイダンスやインターンシップを実施し仕事と学びのつながりを考えたりするなど、生徒の進路希望に合わせたキャリア教育を行い、民間就職希望者の内定率100%を実現しています。

地元企業や自治体と連携した特色ある取組

連携先	国際ロータリークラブ、江東区産業振興課、江戸川区子ども家庭部ほか			
取組	●実習前の電話対応・事前訪問へ向けたきめ細かい指導 言葉遣い・トラブルへの対応の仕方・アポイントの電話対応の仕方・事前訪問メモの作成など	●分野別14クラス編成での事前・事後指導 個人カードの作成・マナーの学習・経路調べなど	●生徒アンケートや各事業所からの生徒評価票をもとにした、生徒へのフィードバック	●卒業生が就職した事業所など、実習先と長きにわたり築かれた「絆」による、実習先と学校との信頼関係の構築
用的能力	①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・管理能力 ③課題対応能力	①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・管理能力	②自己理解・管理能力 ③課題対応能力	①人間関係形成・社会形成能力 ④キャリアプランニング能力

取組名「インターンシップ」

①概要

インターンシップ派遣事業所を国際ロータリー第2580地区、行政からの紹介を受けるなどして毎年100前後の事業所の協力を得て、1学年全員が参加する。2学年での「体験的進路プログラム」、3学年での「総合的な学習の時間」につなげる。

②ねらい

「働くこととは」「社会人にとって大切なこと」「仕事の楽しさ・大変さ」「自分に向いていること・向いていないこと」などを学び、進路選択のきっかけとする。

インターンシップの流れ

生徒の興味関心・進路希望に沿った実習先の開拓

【事前指導】

事業所別のグループに分かれての準備
事業所への事前訪問

【当日】

インターンシップ実習

【事後指導】

まとめと発表会の準備
インターンシップ体験発表会

生徒の気づき

事前訪問やアポイントの電話をすることが、とても緊張した。練習通りうまくいかなかった。

実習を通して、働くことの楽しさと同時に大変なこと、大切にすることなど多くのことを学ぶことが出来た。

何が得意で何が苦手か、今後の自分の取り組み方へのきっかけになった。

業種・職種への興味関心が高まった。将来の進路への目標が出来た。

教員のフィードバック

・失敗した事柄に対してのフォロー・アドバイスをを行い、次の取り組みが前向きになるよう指導

・実習をただの体験だけで終わらせないように、学ぶポイントを明示

都立第五商業高等学校のキャリア教育

スローガン「人づくり夢づくりの商業高校（まなびや）」のもと、生徒の夢や希望進路の実現に向け、地域商店街やNPO、一橋大学等と連携した取組により、地域の特性を踏まえた実践的な学びを推進しています。

国際ロータリー第2750地区と連携したインターンシップ事業や、日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」への応募、文化祭での模擬店等の取組により、ビジネスについての学びを深めるなど、社会人として求められる実践的な資質・能力の育成のため様々な特色ある取組を組織的、計画的に推進しています。

地元企業や自治体と連携した特色ある取組

連携先	企業・NPO等	区市町村・都・国などの 公的組織	地域・その他
取組	●公益社団法人経済同友会と連携した「学校と経営者の交流活動」の実施 ●国際ロータリー第2750地区との連携によるインターンシップの実施 ●ジョブシャドウイングの実施	●首都大学東京准教授と連携した企業研究 ●ハローワーク立川と連携した講演会の実施	●ライフデザイン・社会体験活動による地域との連携（くにたち桜守参加） ●立川商工会議所・国立商工会議所主催のイベントへの参加
基礎的・汎用的能力	①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・管理能力 ③課題対応能力 ④キャリアプランニング能力	①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・管理能力 ③課題対応能力	①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・管理能力 ③課題対応能力

取組名「インターンシップ（就業体験）学年発表会」

①概要

インターンシップの体験を通じて得た成果を学年全体で共有し、今後の学校生活や進路活動に生かす。

②ねらい

望ましい職業観・勤労観を身に付けさせ、適切な職業選択の能力・態度を育成する。

インターンシップ（就業体験） 学年発表会の流れ

【事前指導】

体験した事業所ごとに分かれて生徒と巡回教員とで振り返り
お礼状の作成、発表会レジメ及び発表原稿作成・報告書の作成
クラス発表会、代表生徒選出

【当日】

各事業所の概要、仕事の内容、学び、成果についてパワーポイントにまとめ発表
一橋大学教授、国際ロータリーより講評

【事後指導】

自己評価（ワークシート評価）

生徒の気づき

業務的確さ、お客様が過ごしやすい環境づくり、お茶出し、名刺交換、電話対応などの所作が大切だと分かった。

責任感を持って仕事に取り組むことの大切さ、職場の仲間とのチームワークが大切であることを強く感じた。

初日は自ら行動することができなかったが、徐々に周りをよく見てから行動することができるようになった。

仕事をする上で「ありがとうございます」「よろしくお願いします」といった声掛けが大事だということが分かった。

教員のフィードバック

・体験を通して、人間としての在り方生き方を真剣に模索する意欲と態度を育むための指導・助言

・自己理解を深めつつ、望ましい職業観・勤労観を培い、基礎的・汎用的能力等を高めるための指導・助言

このリーフレットに関するお問合せ先

登録番号（2）9

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-6845(直通)